

平成28年度前期 授業改善計画書

学 部 名	事業構想学部
学 部 長 名	風見 正三
1. 学生の授業アンケート結果から、学部全体で改善すべき重点課題(3つ挙げる)	
①	授業運営における Moodle の活用が十分ではなく、今後は、出席システムと連動した学習支援システムの充実を図ることが求められる。
②	シラバスにおける予習・復習の記載が明確ではなく、今後は、講義の理解を深めるための体系的な授業計画や効果的な伝達方法の検討が必要となる。
③	学部や学群の特性や履修モデルを踏まえながら、効果的なアクティブラーニングの検討を進めていく必要がある。
2. 上記のそれぞれの課題を解決するために必要な取組	
①	Moodle の操作方法や活用方法について定期的に講習を行うとともに、技術を習得している教員から理解が進んでいない教員へのサポート体制を検討する。
②	予習・復習の進め方について理解を深めるとともに、参考となる事例を共有し、授業計画への反映を進めていく。
③	各教員のアクティブラーニングの理解度を確認し、科目の特徴を踏まえたアクティブラーニングの方法論について学類やコース等で検討を行い、ソフト・ハードの整備を進めていく。
3. 上記のそれぞれの取組を具体的にどのように進めていくか	
①	Moodle の活用法を学べる教科書の購入やわかりやすいハンドブックの作成（スチューデントセンターWG）を進め、教授会（教員連絡会議）にて、教職員の情報共有を開始する。
②	予習・復習のあり方について文献等の収集を進め、現在の予習・復習の実態を踏まえて、現状を理解し、それぞれの講義の予習や復習のあり方について、スチューデントセンターWG にて検討を行う。
③	アクティブラーニングのプログラム開発について、学科+学類の連絡会議で検討し、それらを、教授会（教員連絡会議）及びFD で共有するとともに、施設・予算委員会で環境整備計画について検討を進めていく。
4. 参考となる良い授業改善事例について、学部全体でどのように共有するか	
効果的な授業改善計画の事例を整理し、教員連絡会議等で情報共有を進めていく。 FD 等の機会では授業改善計画の進捗をシェアする機会を設けていく。	